

別紙 1

愛媛県 × 東京藝術大学連携プロジェクト

アートベンチャーエヒメ

愛媛県文化振興課

art venture ehime

愛媛県 × 東京藝大 / art venture ehime

東京藝術大学との包括連携協定

令和5年1月27日包括連携協定の締結
都道府県としては、香川県、長野県、長崎県に続く4例目の協定締結



目的

- 東京藝術大学との連携により、文化・芸術の力を最大限活用し、活力ある地域づくりや人材育成・交流を図り、個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的とする。

連携 協力事項

- ① 県の文化芸術振興に関すること
- ② アートによるまちづくり地域の活性化に関すること
- ③ 教育・研究に関すること
- ④ 人材育成・交流に関すること
- ⑤ その他県及び大学が協議して必要と認める事項

アートベンチャーエヒメ プロジェクトビジョン

art venture ehime

愛媛県 × 東京藝大 / art venture ehime

art venture ehimeとは？ (アートベンチャーエヒメ)

「art venture ehime」は、アート(文化芸術)を介して人と人、人と地域をつなぎ、そこから生まれる新たな価値や関係を社会に広げ「愛媛の未来を創造する」アートコミュニケーションプロジェクトです。
少子高齢化に伴う人口減少が進むなか、福祉、スポーツ、観光やまちづくりなど様々な領域にアート(文化芸術)を掛け合わせ、地域が抱える課題に愛媛県と東京藝術大学と県民が連携して取り組みます。
プロジェクトの主体となるのは「ひめラー」です。多様な背景をもつ人々が集い、アートを介したコミュニケーションづくりについて学びながら、人や地域を結びつけるアートコミュニティを育むことで、ひめラーの活動が「地域の処方箋」になっていくことを目指します。

art venture ehimeは愛媛県と東京藝術大学と県民が連携して行うプロジェクトです

愛媛県総合計画
未来につなぐえひめチャレンジプラン

東京藝術大学を中核とする
共生社会をつくる
アートコミュニケーション共創拠点

よくある質問Q&A

Q どんな人が参加してるの？

会社員・教員・主婦(夫)・学生・フリーランサー、退職後の方など様々。多様な背景や興味関心をもつ人が集い、対話を重ねることで活動の可能性が広がります。

ひめラーの活動イメージ

ひめラーとしての活動は最長3年間。その後は、プロジェクトの外へ活動の場を更に広げ、県内各地のフィールドで自発的に「アートで人々がつながるまち」を創っていくことを期待します。

学ぶこと・実践すること

基礎講座 2024年5月～7月

活動を進める方法や対話の場づくり、アートを介したコミュニケーションとはどのようなものかを学びます。新しいコミュニティづくりにつながる基礎的な物事の考え方を、ディスカッションやワークショップなどの参加形式で深めていきます。



実践講座 2024年8月～

愛媛県内のさまざまな文化芸術資源を題材に、モノやコトをよくみるための方法や、活動のフィールドについて、実践的な場面を想定した学びを深めていきます。実践を通して気付いたことや疑問なども振り返り、対話を重ねて進めていきます。



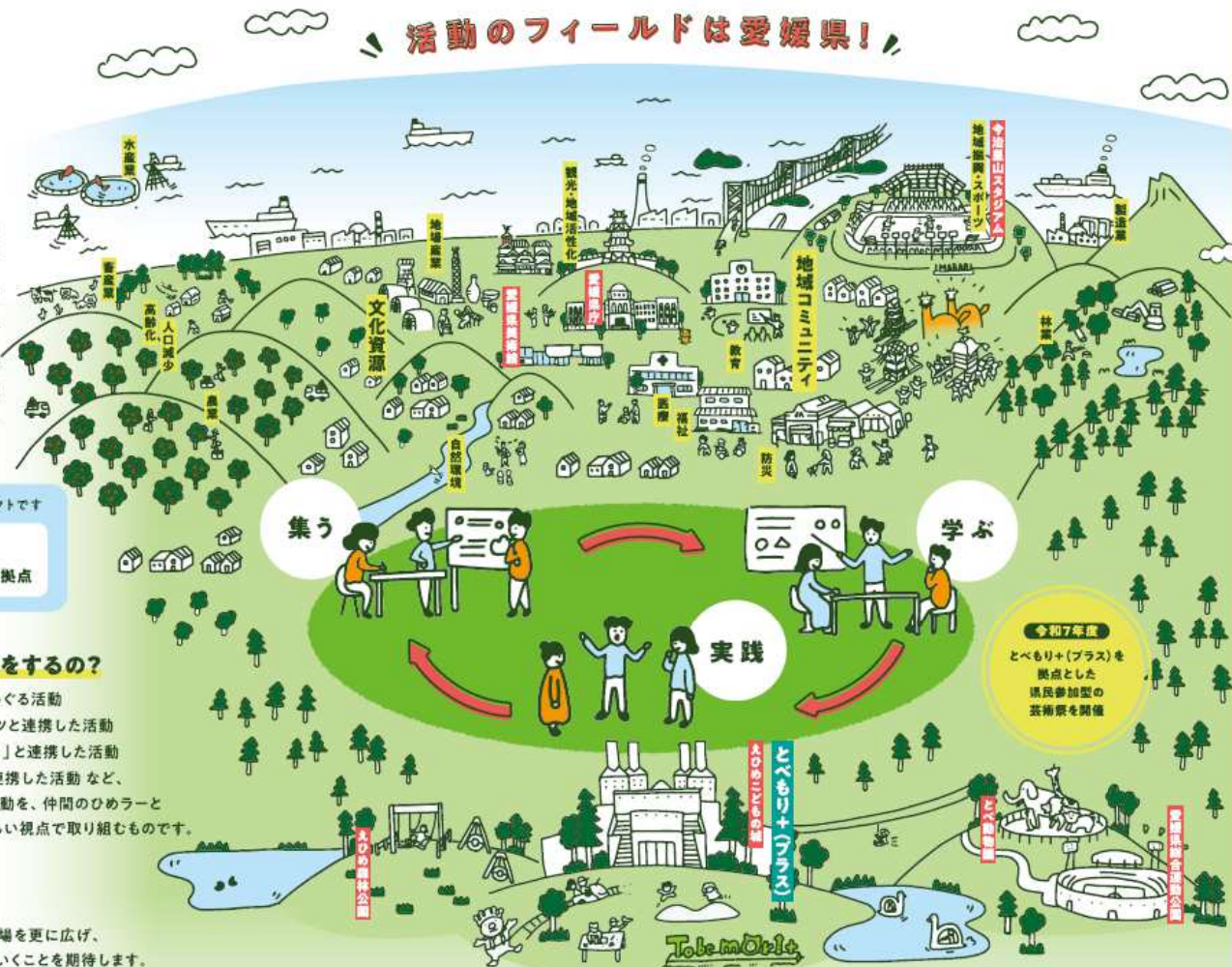
集うこと・はぐくむこと

やってみる

基礎講座や実践講座で学んだことや、それぞれの得意なことを持ち寄り、ひめラーの仲間と一緒に地域社会に飛び出して様々な活動を展開していきます。



活動のフィールドは愛媛県！



令和7年度
とべもり+(プラス)を
拠点とした
県民参加型の
芸術祭を開催

芸術祭の方向性

- アートベンチャーエヒメの活動の成果を広く周知することを目的に、県内のスポーツや文化芸術、学びの場として広く県民に活用される「とべもりプラス」を拠点とした、県民参加型のアートフェスティバルを開催。
- 福祉やスポーツ、環境など、とべもりプラスの各施設の特性に合わせた創作活動を展開することにより、アートが持つ力や可能性を表現し、文化芸術の振興を幅広く図り、地域のポテンシャルを最大限に引き出しながら、交流人口の拡大や地域の活性化にもつながる、愛媛県独自のアートプロジェクトを展開。
- 県内の様々な地域とも連携し、地域独自の多彩なプロジェクトを展開するとともに、県内各地のプロジェクトがとべもりプラスにおいても作品としてアウトプット。
- とべもりプラスは、この取り組みを通じ、様々な作品やプロジェクトの成果が展示されるフィールドミュージアムとなり、アートを介した人や地域の交流のハブ（結節点）として、県内の様々な人や地域をつなぐ役割を担う「アートの森」となることを目指す。
- 東京藝術大学が推進する「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」の参画機関とも連携し、「文化的処方」を開発、検証する実証フィールドとして機能することで、文化芸術の特性を活かしたアートコミュニケーションにより、人々が社会に参加していく新しい回路をつくり、誰もが「自分らしく」いられる、誰も取り残さない共生社会を実現。



【参考】「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」概要

目 的

アート・福祉・医療・テクノロジーの分野の壁を超えて協働的に研究しつつ、人々の間につながりをつくる文化活動「文化的処方」を開発し、社会への実装を試みます。

アートコミュニケーションの特性を活かして、人々が社会に参加していく新しい回路をつくり、誰もが超高齢社会で「自分らしく」いられる、誰も取り残さない共生社会の実現を目指していきます。

拠点ビジョン

上記社会を目指す上で、本拠点では2030年以降を見据えてNEXT SDGsを提案します。物質的・構造的・制度的な持続可能性に基づき問題解決を目指す現在のSDGsから、一人ひとりの「こころの豊かさ」を育み精神的貧困の解決へと拡張し、人の心を中心に据えて17個のゴールの垣根を融かし、社会に総合知を創出するアートの力を図に示す NEXT SDGs に託しています。

しかし、こうした未来のありたい社会像の実現を阻害するのが、超高齢化社会における「望まない孤独や社会的孤立」（以下、孤独孤立）です。これを乗り越えるために、本拠点ではアートと福祉・医療・テクノロジーを融合させ、多様な人々と社会とを結ぶアートを介したコミュニケーションを用いて、「文化的処方」を開発し、孤独孤立および精神的貧困の解決に取り組み、「こころの豊かさ」のある社会を創造します。

拠点の掲げる2030年以降にありたい社会像

誰もが生涯を通して社会に参加でき、生きがいと創造性を持って、
精神的に豊かな生活を楽しむことのできる共生社会

- あらゆる壁や境界を融かす「アート」によって、一人ひとりが「ときめき」を感じながら生きる。
- 多様な価値観を認め合い、助ける、助けられるの二元論を越えた「緩やかなつながり」を実現。
- 新しい楽しみや出会いが次々と生まれる「苗床」が世界中に広がる。



NEXT
SDGs

NEXT SDGsにおいては一人ひとりの「こころの豊かさ」を重要な概念とする必要性を提起していく。

【参考】情報発信について



[文化振興課
公式instagram](#)



[art venture ehime
公式ホームページ](#)

